Japan Institute for Social Innovation and Entrepreneurship

JSIE

2015 Women's Initiative for Summer Empowerment Program in Tokyo

8.1-3 2015

Academy Hills

Women's Initiative for Summer Empowerment (WISE) Program 2015

(WAW Tokyo サイドイベント)

August1-3, 2015 於アカデミーヒルズ、スカイスタジオ

主催： **Japan Institute for Social Innovation and Entrepreneurship(JSIE)**

共催支援: テンプル大学ジャパン Institute for Contemporary Asian Studies
後援： S&R 財団、在日米国大使館、在日米国商工会議所（ACCJ）
アジア財団、GEWEL、経済戦略研究所、日本医療政策機構
協力：アカデミーヒルズ、Forbes Japan

JSIE は、個々の資質を尊重し多様な価値観を受け入れ、女性やマイノリティが十分に活躍できるエコシステムを備えた社会変革の実現を目指しています。そのために女性の活躍を後押ししたり、自立して主体的に人生を選択・決定し、複雑化する国際社会や地域社会の中で自分らしく、そして他者と協調しながら活動することができるグローバルな人財を育成することを目的としています。特に、起業家精神を持ち、創造的かつ成果志向型の思考・判断、そして実践的行動をとることができ、社会変革への行動を起こす新しい 21 世紀型グローバル人材の育成が重要だと考えています。そこで創立記念として、「主体性と実践行動」をテーマに、グローバル・異文化環境で働きたいと考えている学生やヤング・プロフェッショナルを対象に、地球規模の課題に起業家精神を持って取り組むグローバルタレント開発のためのサマープログラムを実施致しました。国内外で活躍している女性リーダーや実務家をパネリストに招き、経験談の共有や自己開発のワークショップ、第一線の専門家等を集めたオープンセミナーなどを盛り込みました。多数の応募者の中から選ばれた約 60 名のフェローが参加し、グループディスカッションや講師陣を交えたハッピーアワーなどを通じ活発な交流の場となりました。

■JSIE/WISE レクチャー
「グローバル化する社会・技術イノベーションと自己変革」

我喜屋まりこ氏
JSIE 共同パートナー、ハーバード大学客員研究員

社会イノベーションを実現するために企業家精神をもって複雑化するグローバル課題に取り組むには、多様なグローバル人材との協同とリーダーシップが不可欠である。

■ 特別公演
「パラダイムシフト: イノベーションと 21 世紀人材の新しい定義」

黒川清氏
政策研究大学院大学客員フェロー、日本医療政策機構代表理事、IMPACTJapan 代表理事

15世紀、Incunabula とは活字印刷物を意味し、社会の変化の始まりを象徴する言葉であった。当時自分で聖書を読むようになった人々はカトリック教会の権威に異議を唱えるようになり、印刷物の流通によって広く一般に科学知識が伝えられ、科学のルネッサンス(再興)が可能になった。現在、同様のパラダイム変化が驚くべきスピードで起きている。インターネットや SNS は人々の情報へのアクセスを可能にし、IT テクノロジーによって Connectivity が実現され世界中の出来事を知ることができる。

私は、イノベーションの定義は、これまでの古い産業革命社会のパラダイムから現在のグローバル社会に転換する際に「新しい社会的価値を創造すること」だと考えている。自分が問題意識を持つ社会問題に対して解決方法を考えだし、さらに実行すること、それがイノベーションである。

日本社会には、縦割り・トップダウン・男性中心の組織、完璧主義、という明治維新から経済成長期の遺物となったシステムが未だに広く存在するが、もはやこれらは機能しない。これからは透明性・説明責任・異議を唱えることが重視され、多様性によって立場の強みや弱みを認識することができることが重要である。スピードが速い時代においては、地図を見て厳格なルートを決めて進むより、コンパスを持って目指す方向に柔軟に進んでいく方が適切だ。日本は今、大きなパラダイムの変化に直面し、だからこそ新しい考え方、ソーシャルイ・ノベーションが今必要とされている。皆さんが日本社会を外から見て、個としての立ち位置を明確にし、変化に順応して、日本に再び活力を取り戻してほしい。

■ Chairperson's オープニングレクチャー

「一日本人女性による挑戦：研究者、実業家、ソーシャルインパクトクリエーターとして」

久能祐子氏

JSIE Chairperson, スキャンポファーマシューティカルズ共同創業者、S&R 財団理事長兼 CEO

両親は 1950—60 年代という時代に、日本の戦後を生きる上で「教育」が非常に重要であると考え、科学への関心をはぐくむ環境を提供してくれた。2つ年上の姉の後を追って京都大学に進学し、生命化学工学分野を専攻した。その後ドイツでのポスドク研究およびアメリカへの進出を通じて、多くのジェンダーバリアに立ち向かい、それらを突破する中で、多様な価値観に触れると共に国際感覚を養った。

これまでの人生を通じて、個人、特に女性が「自立した思考」を持つ事が非常に重要だと考えている。これは現在の日本の教育環境ではあまり教えてもらえないが、個人が「自立した思考」を持つことからイノベーションが生まれると考える。

目標を「山の頂」と考え、頂点に到達するため大きな山を登るようなアプローチでチャレンジを重ねていくことが大切だ。頂点に向かって着々と進み、目の前の小さな障害を乗り越え続けていくことが目標到達への重要な積み重ねとなるのである。また、常に自分は成長でき、社会をより良いものにできると信じてポジティブに人生を歩んでいる。自分を信じる力を持ち続けることは様々な挑戦を重ねる上で必要不可欠である。そして何か新たな目標を掲げたときは、起こりうる最も良い結果と、最も悪い結果を同時に想定しておくことで、リスクに対して臆することなくポジティブに挑戦することができる。「ポジティブに考え、前を向いていけば、世界は広いし、人生は長い」のである。

■ Career/Life-Story Sharing: "My Experience My Lessons"

国内外で活躍している女性リーダーをパネリストに招き、これまでの人生やキャリア上重要な転機となったことについて、モットーや教訓を共有するセッションとなった。数ある選択肢の中でなぜその道を選んだのか、経験談や失敗談の共有を通して、人生の指針について学ぶ貴重な機会となった。

パネリストとして参加した内外の女性リーダーは、カルメン・ロメリン元オバマ政権米州機構大使、同友会副幹事小林いずみ氏、コカ・コーラジャパン副社長後藤由美氏、在京英国大使館筆頭公使ジュリア・ロングボトム氏、ルミナ・ラーニングジャパンパートナーのエリザベス・ハンドーバー氏、そして在京米国大使館公使マルゴ・カリントン氏である。ハッピーアワーでは、フェローがパネリストの方々に直接議論や質問をぶつける場となった。（尚、フェローによる事後評価では本セッションが最も人気のあるものとなった。）

■ Art of Leadership in A Complex World:
複雑化する社会におけるリーダーシップとは？

我喜屋まり子によるレクチャーのあと、実際に活躍している以下のヤング・プロフェッショナルらによる社会変革や人材育成への取り組みに関する発表が行われた。

Case Presenters:
Lily Yu 氏 (在日英国カウンシル国際研究・高等教育管理部門)
Prakash Shakya 氏 (東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学教室)
小嶋美代子 氏 (株式会社日立ソリューションズ　ダイバーシティ推進センター　センター長)

■ Open Forum:
"A look ahead: ベンチャー×社会イノベーション×女性・多様性"

新たな 21 世紀グローバル社会を実現するために、多様性を促進し社会イノベーションを起こす担い手を創ることが重要である。久能祐子氏（米国 S&R 財団理事長）、カルメン・ロメリン大使（元オバマ政権米州機構大使）、ジョセフ・ブレイン氏（ハーバード大学教授）、角南篤氏（政策研究大学院大学教授）による講演及びパネル・ディスカッションを実施した。

ハーバード大学から JSIE へ名誉ある「マーシャル・グリーティング」の授与が行われた。

久能祐子氏 Keynote スピーチ

「21 世紀の課題解決に向け、如何に自分の能力を最大限に活かせるか考えてほしい」

より良いグローバル社会を創るために、日本の女性の貢献は重要であり、一人ひとりが如何に自分のスキルを最大化できるか考えることが重要である。日本の女性は貧困・環境・ジェンダーの問題など、先進国・途上国双方が抱える社会的課題に対して問題解決能力に優れており、21 世紀の課題解決に向け、如何に自分の能力を最大限に活かせるか考えてほしい。

私自身、京都大学で生物化学を勉強した後、アカデミックからビジネス、科学者から起業家へとキャリア・チェンジをする際、ドイツでの留学経験がとても役に立った。不慣れなドイツでの生活は当時とても大変だったが、難しい状況に直面して自分自身をよりよく学ぶことで「自己効力」について会得することができたからだ。是非、日本の学生にも海外を旅行したり留学する経験を積んでほしい。現在は、米国ワシントン DC の S&R 財団を通して社会変革を促すため、優秀なアーティストや科学者、起業家を支援する活動をしている。最後にひとことメッセージを送りたい。「世界は広く、人生は長い」ので、明るく、前を見据えて、足元を固め、行動をおこしてほしい。

カルメン・ロメリン大使

「女性の力が社会を変える」

女性を差別し排除したままでは、経済・地域・文化の発展において、社会は自らの手を縛ることになる。これは、「自由な国」という概念や、民主的なプロセスの実現に、根本的な障害となっている。規約の制定は最初のプロセスでしかなく、国の政策策定者は合意内容を具体化し、変化と成長を促していくことに責任をもつと同時に、有権者は説明責任を求めていかなければならない。男女平等を明言したすばらしい枠組みがあるにも関わらず、多くの場合女性は、暴力の被害者であり、貧困の中で暮らし、教育の機会が奪われ、人権は軽んじられている。女性が社会の中で活用されず、不利な立場に置かれたままでいることは、データが証明している。

解決のためには、政策策定プロセスおよび地域の発展のため女性参加が不可欠である。政策策定への女性の参加率を最低 30%にまで引き上げると、変化をもたらすことができる。さらに女性は男性に比べて、健康・福祉・地域経済発展への投資を指向するため持続可能な地域開発を促すと言われている。政府レベルでは、性別やマイノリティの平等に関するとらえ方を変えるべきだ。つまり「女性」に特化した問題ではなく、むしろ、地域全体に深く影響をもたらす政策であり実践なのだ。性別、人種、そして出自による差別なく、全ての人々に効率的に政策が施行されてはじめて国は成功する。平等は、本来、社会、経済、政治、そして文化的アクセスにまで及ぶべき広義なもので、公正で平等な待遇に支障をもたらす障害は、法律によって明確にまたは文化的実践を通して暗黙のうちに取り除くべきである。

ジョセフ・ブレイン教授

ハーバード大学教授

「アリス・ハミルトンは苦難を乗り越えた女性のリーダーである」

偉大で影響力の強いアリス・ハミルトンの人生について共有したいと思う。彼女は、インディアナ州で育ち、ミス・ポーターズ学校で学んだ。この学校は、女性が教養のある母親、妻となる準備をするための、いわば花嫁学校であった。しかし、彼女は医師になることを決意し、当時女子学生を受け入れなかったハーバード大学ではなく、アン・アルボール大学に進学し，ポスドク研究も実施した。彼女は、移民が就いている職業業種別に病気が分類されることに衝撃を受け、産業保健の母として貢献したことで知られている。彼女が 50 代の時、ハーバード大学公衆衛生学部長と医学部長は産業衛生分野の教員を探していたが、当該分野では第一人者であるにもかかわらず、女性であるというだけで、ハミルトン氏は正式には採用されなかった。一年後にやっと助教として教職につくことが認められた。ミシガンのアン・アルボール大学では教授会に出席することができたが、ハーバード大学では認められなかったのだ。のちに彼女は、ハーバード大学では女性初の教授会メンバーとなったのである。その後、103 年の人生の中で女性参政権のリーダー、調停者、社会主義者、科学者、教育者として活躍し、彼女の肖像はアメリカの郵便切手にも登場し、その人生を称えられたのである。

日本の平均余命はこの 100 年で 2 倍になった。これは、子供や新生児の死亡が減少したことや様々な要因と関連しており、例えば、食料、職業、保健システムなどである。高齢化社会に突入した結果、適切な政策を決めることが私たちの課題である。たとえば、公衆衛生では母集団を対象とした戦略が必要であり、安全な飲料水の確保、空気の浄化、安全で安定したコミュニティを提供すること（特に女性に）、診断や治療だけではなく予防を普及することなどである。この高齢化社会の問題の解決は、移民政策の改定や就労期間を引きのばすことの他に、ソーシャル・イノベーションや起業によって、あなたがたが社会を変えてくれることを期待している。

角南篤教授
政策研究大学院大学教授

「社会として、多様性の価値を受け入れることが重要」

21 世紀に入り、グローバリゼーションやテクノロジーの発展によるダイナミックな変化が起こり、社会はより複雑な様相を呈している。単一的な同質社会では、こうした変化に伴った様々な問題を解決できない。最近読んだ”The Differences”によれば「例え IQ が高い個人であってもシングルプレイよりもグループワークの方がパフォーマンスがはるかに高い」のである。グループでの協働とは、すなわちダイバーシティの実現である。多様化した人々で構成されたグループは、より創造的かつ革新的なアイデアを同質社会よりも創出する可能性が高い。安倍政権では、女性の社会進出を促す努力がなされているが、この政策が実際のところ機能しているとは言いがたい。長期的視点で、社会の多様性を受け入れることが今日の私たちに求められる姿勢である。

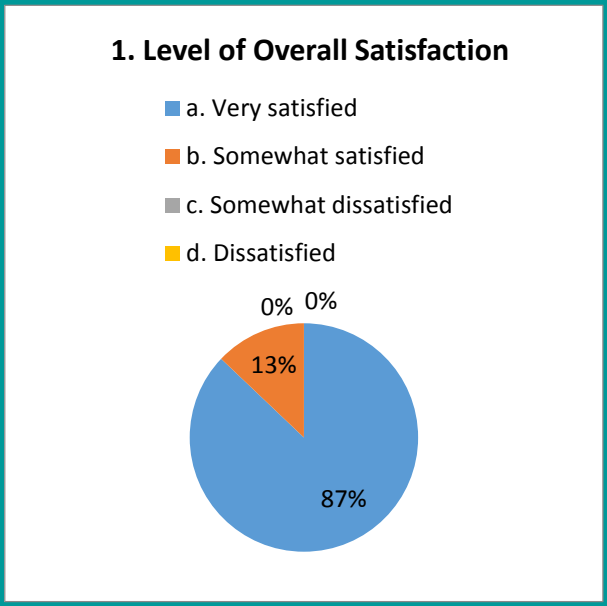
■ Art of Leadership in A Diverse World:
現在私たちが直面するグローバル課題にどう対応すべきか？

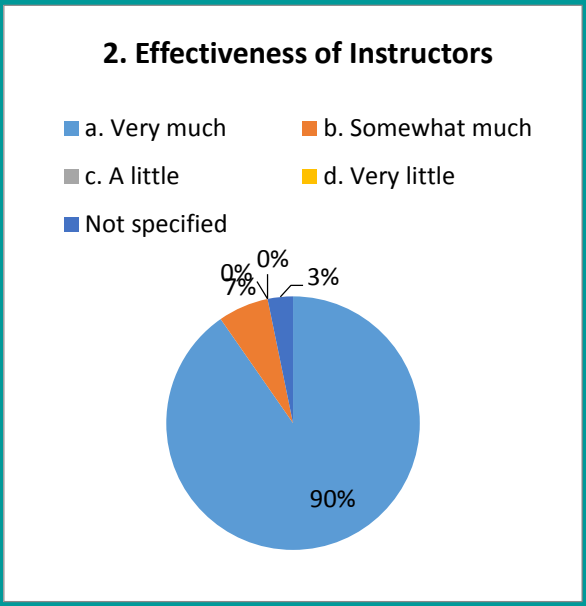
実際に途上国の人々が直面している貧困や難民といったグローバルな課題にどう取り組んでいるのか、また解決していかなければならない課題について、活躍するプロフェッショナルによるプレゼンテーションが行われた。

小木曽麻里 氏 (ダルバーグ・ジャパン　代表)
石川えり 氏 (難民支援協会　事務局長)

WISE 2015 Program Evaluation Survey

JSIE conducted an evaluation survey after the program and received overall positive feedback from the fellows. As shown from the pie chart below, **87%** of the fellows answered ***"very satisfied"***, and **13%** ***"somewhat satisfied."***





Here are some voices from the fellows.

- *Thank you so much for giving us such a great chance to listen to many wonderful lectures!*
- *Thank you so much for making this program happen. I really appreciate it and it really motivated me in multiple ways.*
- *I'm a really lucky person to participate in the great program. I'm inspired by many people, and I decided to keep studying and taking part in this kind of program.*
- *I want to join this program again and keep this relationship with other fellows.*

As an organizer, JSIE also learned a lot of things from the WISE 2015 Program. We will continue to work hard to expand and improve on this program in the coming years.

JSIE
Japan Institute for Social Innovation and Entrepreneurship

JSIE would like to thank distinguished speakers, panelists, supporters, and fellows especially Dr. Yu Maemura and Dr. Lily Yu for assisting WISE program 2015.

JSIE 東京事務局

〒100-0005
東京都千代田区丸の内 2-2-1
岸本ビルヂング 6F
www.jsie.net
info@jsie.net